

「時代祭応援プロジェクトを終えて」

法学部 2 回生

篠 竜希

I. 志望理由

私は、今の自分を知るため、そして変えるために、本プロジェクトを志望するに至った。人生の中で、学生時代というのは、自分のために使える時間が最も存在する期間であると、私は思っている。そのため、その利点を活かして、大学内でのコミュニティに固執するのではなく、地域という大きな枠組みの中で活動することに、視野を広げることとしたのである。

II. プロジェクト内容

本プロジェクトは、時代祭の運営に携わらせて頂くことが、第一の目的であることは確かである。しかし、祭というのは、地域社会と密な関係にあるため、祭を知るためには、その地域への理解が不可欠であった。そのため、地域に根差した活動として、小学生の見守り活動や消防団の夜回り活動、地域のイベント運営等、様々な地域活動に参加させて頂き、地域の一員として、少しは認めて頂けたようにも感じた。また、本プロジェクトは、他の受講生と共にチーム活動でもあるため、それぞれの役割を自覚し、連携していく必要があった。受講後、私が最も反省したのは、この部分である。当然のことながら、初めから連携力に長けたチームなんて存在しない。しかし、いつまでも、それぞれがそれぞれに依存しすぎてしまっているのは、成長は生まれなため、次年度以降の受講生には、些細なことであっても、頻繁にコミュニケーションを取り合うことを強く勧めたい。

振り返ってみると、このように悔いの残る部分もあったことは確かではあるが、それ以上に、得られるものも大きく、私は受講を後悔したことは一度もない。本プロジェクトは、京都の学生であるからこそ経験できる大変貴重なものであり、京都三代祭である時代祭に参加させて頂けたという事実は、今後も忘れることのない大切な思い出となった。本プロジェクト中、困難な場面に遭遇することも多々あったが、全てを終えた後の達成感は今でも忘れない。

III. 受講後の変化

最後に、本プロジェクトを終えて、自分自身を変えられたかどうかを証明することは難しいが、客観的に自分自身を捉えられる力を身につけることはできたと思う。そしてもう一つ、大切なものを手に入れた。それは、人との繋がりである。私は、次年度も、本プロジェクトの受け入れ団体である平安講社第八社の方々と共に、本プロジェクトをサポートさせて頂く。こうして同世代以外の方々と関わりをもたせて頂くことは、学生である私達にとっては大変光栄なことであるため、少しでも本プロジェクトに関心のある方は是非受講して頂き、充実した学生生活にして頂きたい。

